

● 新しい愛称

人権啓発ネットワーク大東機関誌は新しい愛称を募集します。
皆さんの思いを込めたステキな愛称を送ってください。
8月末日締切

募集中
コーナー

● 会員募集

活動内容
人権意識をたかめるための研修会などへの参加・参画。
人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。
会費等はありません。

● ヒューマンライター

大東市で人権推進につながる取り組みを行っている方々の取材をしていただく方（ヒューマンライター）を募集します。

【応募方法】様式は問いません。

ご住所 ご氏名 お電話番号を記載の上 郵送、FAX でお願ひします。
〒574-8555 大東市谷川 1-1-1
大東市役所（市民生活部 人権室内）
人権啓発ネットワーク大東事務局
TEL：072-870-0441 FAX：072-872-2268

編集後記

人権啓発ネットワーク大東機関誌第3号をお送りします。今後、3か月に1回くらいの発行を考えています。本市の人権問題等について、市と協力しながら人権文化の向上に資することができれば幸いです。なお、本機関誌の「愛称」を募集します。



奮ってご応募ください。お待ちしております。

【広報委員会 宮本 喬】

人権啓発ネットワーク大東機関誌

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東

〒574-8555 大阪府大東市谷川一丁目1番1号 電話072-870-0441 FAX072-872-2268

第3号 2015年7月

さりげない毎日こそが幸せの源泉

～憲法週間記念のつどいふれ愛コンサート～

人権啓発ネットワーク大東も主催者として参加した憲法週間記念のつどいふれ愛コンサートが5月8日夜、サティホールで開かれました。「いのち 紡ぎ 愛 はぐくみ 平和をつなぐ」がテーマの今年のコンサートは、ブラジリアンギター第一人者、笹子（ささご）重治さんのギターひとつだけで、亡き坂本九さんの長女、大島花子さんが2時間弱を歌うというもの。ブラジルの風土で育ったという独特のギター演奏スタイルがどんなものか知らないことも、コンサートの楽しみの一つでした。700人ほどのお客さんを前に、大島さんはオリジナル曲のほか「河内おとこ節」や「大阪の女」、美空ひばりさんの江戸っ子調の歌、坂本九さんの思い出曲など、14曲を歌いました。



プロの歌手に失礼な物言いですが、演歌などそれぞれに個性の強い曲を、笹子さんの洋楽風の軽快なギターテクニックに乗って、大島さんは自身の曲に消化して器用に歌いこなしました。

大島さんのお父さん、坂本九さんは、1960年代ロカビリーから和製ポップスへの幕開け時の草分け的な存在で、深夜ラジオでよく聞きました。1970年代には障がい者福祉運動に力を注いだ人。手話を広げる運動を進めたことでも知られる。飛行機事故で亡くなったのは43歳で惜しまれた人でした。大島さんはそんな父親から教わったという手話で「上を向いて歩こう」を会場のみならず手話合唱。手話が感情豊かな表現の言語との話に「なるほど」と会場の皆さんもうなずいていました。

大島さんの2時間近い歌の視点は、戦争から帰らない息子を想う「岸壁の母」を歌ったときのように、「家族とのなんでもない、さりげない毎日こそが幸せの源泉で、当たり前日常こそが尊い。だからこそ反戦争、平和など憲法の精神を私たちは守りぬかねばならない」ということだと、勝手に私は納得しました。楽しみで夕方会場に向かったときの期待を裏切らなかった「愛といとおしさ」いっぱいふれ愛コンサートでした。

記者：松ちゃん



い い と なる の 活 き 生 き サ ン

ここでは、大東市の人権推進につながる取り組みを行っておられる方々や団体の紹介をさせていただきます。

～子育てを、地域住民のたすけ愛で～

一度しかない人生 男性の私が地域で子育て支援をする意味

認可外の保育施設を、2000年4月に始めました。認可園では現在は空きがあれば入れますが、当時は4月入所以外途中受け入れず、待機児童が多かったのです。行政は小回りきかないな…と、受け皿として始めました。「誰かが担わない」という気持ちと、一度しかない人生を、地域のことも知らない企業戦士で終わりにたくないという思いでした。今は、指定管理者として「キッズプラザ」を約9年前（設立当初）から運営し、約1日当たり100名（50組）の親子の参加があります。それから、地域の子育てボランティアさんのご協力をいただいて地域子育て支援拠点事業活動を行っています。



子どもへの虐待が社会問題になっていますが、虐待があれば雰囲気で見分かります。受付の挨拶や遊んでいる様子を見ていて、暗いとか、手が出るとか…。

そんなときは、親へ強要したり、負荷をかけるのではなく、適切なアドバイスが必要です。目先を変えて、余裕を持って…等、保育士からポイントを伝え、子どもへの接し方をアドバイスします。それから、受け止める…つまり聴くということ。丁寧に、共感を心がけます。親も忙しく、精神的にまいっているのです。家庭環境も配慮しながら、気持ちを解きほぐすことが大切です。これらを通して状況把握を行い、ここだけで解決できない急を要す場合は、地域と手を結ぶことが肝要です。地域保健課（保健師）で個別訪問を利用することや、担当の保健師と連携、情報交換、次のアプローチを検討します。それでも無理なら、児童養護施設に通報しなければなりませんね。

キッズプラザの様々な教室や日々の行事等は、地域のボランティアの方々が中心になって行っています。お母さんの特技を活かした教室にさせていただくとか、支援者の掘り起こしのために、ボランティア養成講座を開催しています。延べ30名位が受講され、ご自分の地域で活動をされ、輪が広がっていることを感じます。地域全体で、子育て・見守りのネットワークを築くことが大切だと思います。ただ、受講者が減ってきていることと、時間に余裕のある方しか続かないのが課題です。



どしや まきのり
土砂 正徳さん

45歳の時に、20年間勤めた会社を退職して保育事業を始め、現在は、子育て支援NPO法人代表をしております。



大東市立キッズプラザ 子育て支援センター
大東市幸町 8-8

～人権啓発ネットワーク大東に思うことは～

市民がたくさん入って、それぞれ得意なことを発揮できれば良いと思います。カメラとか、コンピュータとか…。そんなボランティアの輪の広がり、私の目指す地域でもあります。でも、自分もこれまで色々な活動をしていて、組織というのは理想と現実のギャップがあるなとも思います。様々な人と連携を取りたいのですが、「組織」となると上手くいかない。〇〇委員会とか固くなると、なぜかギクシャクする。最終は個人だと思うのですが、組織が入ると本音が引込む。そんな壁も上手く乗り越えて、「人権啓発ネットワーク大東」が発展していくことを望みます。

～東日本大震災から4年 私たちは忘れない～

～野崎観音会館で第32回人権パネル展～

野崎まいり期間中、野崎観音会館をお借りして認定NPO法人ゆめ風基金のご協力第32回人権パネル展「東日本大震災から4年私たちは忘れない」を開催し、期間中2190人の入場者がありました。

野崎観音は、人がすれ違えないくらいに混んでいました。パネル展では、被災地復興の都市計画作りさえ進んでいない様子や、全国から障がい者自身による被災地訪問が取り組まれた様子、東北と関西の障がい者同士による生活文化交流が開かれた様子など、障がい者自身が行動する様子や、それを支援するボランティアの活動が紹介され、訪れた人がパネルに見入っていました。

会館入口では、人権啓発ネットワーク大東のテントを出して、復興支援の物品販売を行いました。宮城県と福島県の障がい者施設から購入したサブレやあぶら麩井などを完売しました。集まった義援金は認定NPO法人ゆめ風基金に届けました。

認定NPO法人ゆめ風基金とは？
阪神・淡路大震災を機に自然災害の被災障害者の支援を目的に設立され、現在も東日本大震災ほかの被災障害者支援に取り組んでいる。

人権パネル展

東日本大震災復興支援ライブ

復興支援物品販売



大東市出身 歌手 黒木淳菜さん